

1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月28日

【評価実施概要】

事業所番号	1273500312
法人名	有限会社シーシー商会
事業所名	グループホームにこここ滝台
所在地	〒289-1123 千葉県八街市滝台1807番地 (電話) 043-445-1106

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年3月27日	評価確定日	4月30日

【情報提供票より】(20年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤3人, 非常勤12人, 常勤換算6人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨プレハブ造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円, 36,000円(日 当り・生活保護者)	その他	食費45,000, 水道光熱費20,000(生活 保護者10,000), 理美容, オムツなど	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:2年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(3月10日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	0 名		
要介護3	2 名	要介護4	6 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	武村内科医院 都賀デンタルクリニック
---------	--------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

もうすぐ開設して5年目に入る。この間に蓄積されたケアのノウハウや職員の熱意で入居者を支えている。季節の花で彩られた玄関スペースに木製のベンチが置かれ、雰囲気づくりとともに入居者が靴をはくときに、ちょっと腰掛けるのにも役立っている。明るい室内にも観葉植物や花が飾られ、ほっとできる空間になっている。介護度の重い入居者もいるが、職員の行き届いたケアで、落ち着いた暮らしを営んでいる。管理者や職員も地元在住の人が多く、入居者の育った環境を良く理解しており、入居者の思いをよく受け止めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘を受けたところは、できることから改善の努力をしている。職員と一緒に食事をしていない、という件については、必ず1名と一緒に食事をとるようにした。お金を持つことの支援に関しては、家族との関係もあり、難しい面はあるが、ジュースを買いに行くところから始めた入居者もいる。介護計画作成等に現場職員の声を反映させることが重要と指摘を受けた点は、介護計画作成に関して、職員の気づきを取り入れるようにしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が常勤職員の意見を聞きながらまとめ、出来上がった自己評価に目を通してもらった。非常勤職員には、出来上がったものを読んでもらうようにした。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	最近、第1回目の運営推進会議を開催した。内容はホームの概要説明、ホーム開設時における地域の支援の経緯、家族の思い、等である。ホーム開設時の地域の協力、支援について改めて確認し、次回の会議で、ホームとして地域で何が出来るかを提案したいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	重要事項説明書にホームの苦情相談窓口とともに、外部の相談窓口も記載している。また、地域密着型に移行してからは地元の入居者が増え、家族が頻りに訪れるので、その際に、意見、要望を聞くようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	区長や区長代理が気軽にホームを訪れたり、「こども110番の家」も引き受けている。また、小学校の社会科の授業でホーム見学を受け容れたり、小学校の運動会や、老人会の行事参加もある。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知症によって自立した生活が困難になった入居者に対して安心と尊厳のある生活を支援する」という理念のもと、ケアを実践しているが、地域密着型サービスを意識した内容が盛り込まれるとさらによいと思われる。		地域密着型サービス事業所としての独自の理念を考えることが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	あちこち、目につく場所に理念が掲示されていて、職員の中にも浸透している。職員は理念を理解して、ケアの中で実践している様子が分る。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「こども110番の家」を引き受けたり、小学校の社会科の授業でホーム見学を受け入れている。また、小学校の運動会や老人会の行事に参加している。この他、廃油のリサイクルに協力したり、近隣の農家からは野菜やスイカの差し入れもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は、自分たちを振り返る良い機会と捉えている。指摘された項目は出来ることから、改善している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近1回目の運営推進会議を開催した。参加者は、区長、区長代理、地域包括支援センター、入居者、入居者家族、事業所代表、ホーム職員3名である。今後も定期的に開催して、サービス向上に繋がりたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人代表が市町村と連携を密にとっており、何かと頼りにされる存在になっている。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会が頻繁にあるので、その際報告することが多い。面会が少ない家族に対しては、月1回請求書とともに報告したり、電話で連絡を取っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	土地柄もあるが、家族が意見をいいやすい環境が整っており、意見や要望は多い。出された意見については、できるだけ、反映するようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率はよいが、異動がある場合は、新しい職員との引継ぎ期間を設け、入居者の受けるダメージを少なくするようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の職業意識も高く、ホームも職員の資格取得を積極的に支援している。外部研修受講の機会も提供しているし、ケアについては実地指導で、その場その場で必要なことを教育している。しかし、系統立てた研修が実施されているとはいえない。		内部研修を充実させて、常勤、非常勤問わず、全職員が系統立てた研修を受講できることが必要と思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者、管理者は同業者との交流が年3～4回はある。しかし、職員レベルでの交流までには到っていない。		職員にとっても、同業者との交流は良い刺激にも勉強にもなると思われるので、今後は職員同士の交流の場を作ることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>希望があれば、体験入居ができる。また、ホームの生活に慣れるまでは、家族にたびたび来てもらい、精神的な安定を図るようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>決して一方的な介護にならず、職員は入居者から学ぶことが沢山ある。農家出身の入居者も多く、野菜作りに関するアドバイスは欠かせない。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃から本人や面会に訪れた家族とよく話し合い、一人ひとりの入居者の気持ちの把握に努めている。会話が困難な場合は、日常的な触れ合いの中から察するようになっている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者一人ひとりの状況に応じて随時「担当者会議」を開いている。その中で、本人、家族、職員、医療関係者等の意見を集約し、介護計画に生かしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入所時は3ヶ月毎に、その後は6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。その他必要に応じて見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自主サービスとして、通院の付き添いや入院時の食事の介助、買い物の同行等、入居者や家族の要望に応える形で行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	要望に応じて、入所前に通院していたかかりつけ医を受診している。又、入居者の病状回復を願って、適切な医療が受けられるよう努力し、納得の得られた病院と信頼関係を築いている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した入居者の状態や今後について、本人、家族を中心に関係者がよく話し合っており、職員間でも情報を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの入居者の尊厳やプライバシーが守られるよう、職員は言葉掛けや行動に注意している。個人記録ファイル等は事務所で責任を持って保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れは決まっているが、一人ひとりのペースに合わせて、食事、入浴時間等にもゆとりを持たせている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が収穫した季節の野菜を食卓に載せたり、職員と共に食事の準備や後片付けをする、職員の一人が食事を共にする等、一日の生活の中でも食事の時間を大切に位置付けている。今後も、一緒に食事を取れる職員が増えていくと、さらに良いと思われる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日は決まっているが入居者一人ひとりの気分や状態に合わせて柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム周辺は農地で入居者に畑仕事得意な人も多いため、野菜、果実、花の栽培等に年間を通して取り組み、楽しみや気晴らしの機会としている。又日常の家事仕事にも持てる力を発揮してもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺は自然環境に恵まれているので、天気の良い日は誘い合わせて散歩に出かけている。閉じ籠りがちな入居者に対しては、ペットの犬の相手をしたり、実のなる植物を観察するなど、ホームの庭に出る機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	近隣の協力と理解の下入居者の見守りを徹底し、日中玄関に鍵を掛けないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年は2回避難訓練を実施、職員間で防災についての話し合いも行った。今年は近隣も交えての避難訓練を予定している。		近隣との良い関係を災害時にも発揮される様、近隣の方々と合同の避難訓練をぜひ実現される事を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分摂取量を小まめに記録し、一人ひとりの摂取量を職員が把握して、必要な支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり は					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	随所に季節の花を飾り、壁には入居者の作品を掲示するなど、ホーム内を明るく清潔に整えている。居間兼用の食堂では入居者が思い思いの様子でくつろいでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの入居者の希望や好みに合わせて使い慣れたタンスやなじみの品を置き本人が部屋に親しめる工夫をしている。		